

環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山(全国 500 カ所)」に「八千代市ほたるの里」が選ばれました！

ほたるの里だより

八千代市ほたるの里づくり実行委員会 第73号 2024年3月



ほたるの里の花（早春）



① ユキヤナギ ②ウグイスカグラ ③スイセン ④オオイヌノフグリ ⑤セイヨウタンポポ
※この里だよりは 令和5年度 ちば環境再生基金助成金（県民の活動）を頂き作成しました。

公益財団法人ニッセイ緑の財団からご寄付をいただきました

日本生命保険相互会社の関係団体「公益財団法人ニッセイ緑の財団」が設立30周年となるのを記念した環境団体への寄付事業において、ほたるの里づくりの取り組みが評価され、八千代市ほたるの里づくり実行委員会を寄付先としてお選びいただきました。

これを記念した式典が、令和5年12月19日に市役所で行われ、服部友則八千代市長立ち会いのもと、日本生命保険相互会社船橋支社長の高見澤様から、八千代市ほたるの里づくり実行委員会会長へ、寄付金目録の贈呈がありました。

今回いただいた浄財は、市民の皆様、地域の皆様が生物多様性を身近に親しんでいただける環境づくりのため、有意義に活用させていただきます。（事務局）



おやこ生き物探検隊(秋：かいぼり)2023年11月18日(土) 11:00~12:00

今年のかいぼりでは、タモロコ、アメリカザリガニ、タニシ、ヤゴ、クビキリギス、クサガメ、ハイイロゲンゴロウ、ウシガエルのオタマジャクシ等が観察できました。

参加者は4家族11名。やはり子どもたちは生き物を捕まえるのに夢中で、たも網を池に突っ込み、生き物と泥をすくい、その中に生き物がいないか探すのに一生懸命。

タモロコや小魚は小さいものから大きいものまで多く、少数のヤゴやクビキリギス、ハイイロゲンゴロウなど生息が見られました。

一方、不思議なことに昨年たくさん生息していた

ウシガエルのオタマジャクシが一匹しか見つかりませんでした。今夏の気温が暑かったせいなのか、原因はわかりません。

それでも、生き物を手で触れる機会の少ない時代、網で生き物をすくい、手でつかみバケツに入れることをした子どもたちは、楽しい体験をしました。

(文責)
ホタルメイト
板橋忠生



おやこ生き物探検隊(冬) 2024年2月10日(土) 13:00~14:30

2月10日は晴れで、暖かい日でした。親子6組(12人)、里のスタッフ及び講師(10人)で、里の探検をしました。

探検の始めは、バイオネスト(生き物のすみか)の枝や、木などをはずして中に何がいるかを皆で見ました。スタッフも中を見るのは初めてで、ワクワクでした。残念ながらカブトムシの幼虫はいませんでした。ハサミムシ、ムカデ、ダンゴムシが隠れていました。

腐りかけた枝の中に虫がいると気づいた子ども達は、枝の中を探していました。その後は、それぞれ思い思いの場所で生き物探しをしました。

落ち葉の中には、クビキリギス、ニホンアマガエル、テントウムシなど。水の中には、カワニナ、ニホンアカガエルの卵塊など。ハンノキの花もありました。

空を見上げると、なんとノスリが何度も姿を見せてくれました。

楽しい探検でした。

(広報部)



朝、登校したら(村上小学校の5年の晩秋)「今日は名主山に行きます」と言われました。転校生の私には名主山も知らなければ、突然、今日の勉強が校外学習に変更になる事も驚きでした。

名主山とは今の村上団地ができる前の原野というか小高い丘で見つかった弥生式文化期竪穴式住居跡の事です。八千代市教育委員会の詳細記録にあります。ここではあくまでも小学生の目線で当時の状況を書きます。

私の通っていましたが村上小学校は、今の八千代市郷土博物館のところにありました。名主山までは歩きです。鬱蒼(うっそう)とした木々の山道を列を作って歩いていると女子の一人が、「こちら辺は春になると家族でワラビ取りに来るところだよ」と教えてくれました。確かに子供たち同士では簡単には、怖くて来られない所だと感じました。

原野の中を歩いていると小高い丘が開け、ロープに囲まれた地面を四角く掘った跡が3つか4つあった記憶があります。ここに大昔の人が住んでいたところかと思うのですが、今一つピンときません。友達から土器を探すぞと言われ、地面の表面に落ちている茶色の破片が土器だからと言われて探すのですが、小さなかけらを探すのがやっと。しばらくするとみんな飽きてしまい、広い丘を走り回って遊ぶのに夢中になっていました。

住居跡の近くには湧き水があり、私はそこで犬の顎(あご)だと思われる骨を見つけました。その骨が当時の犬かどうかはわかりませんが、大発見と思いつつも丘をみんなで走りまわることの方が何よりも魅力的になってしまい、見つけた土器や骨はどうしたのか。

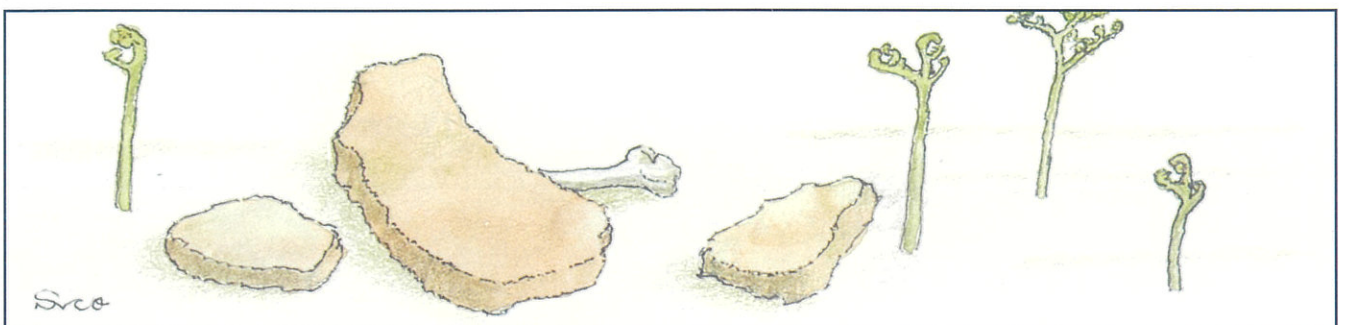
原野に生えている背の低い樹木のほとんどが山栗の樹であることを発見し、その時は秋も終わり、すでに栗はなくイガがたくさん落ちていました。もちろんしっかり記憶にインプット、翌年は友達3人で栗拾いに行き、名主山は小さな山栗でバスケット籠(かご)を一杯にしてくれました。

帰り道は、「ウサギだ！」と追いかける者、途中の湧き水では、石をひっくり返して動きの鈍いサワガニを見つけたり、名主山の自然は私を満喫(まんきつ)させてくれました。

村上団地ができる前の発掘調査では、かなり貴重な遺跡が出てきたとも聞いています。

村上団地の造成の時は、切り開かれた赤土の広っぱには、たくさんの大きな土器のかけらが落ちていて、ほぼ完全な茶碗(ちawan)を見つけ学校に持っていき先生が教室に飾ってくれました。壺(つぼ)をみつけた友達は学校に持ってくる途中で落として割ってしまった報告もきいています。土器に慣れた私達、普段の遊びの中で畑や原っぱなどにも土器が見つかることがわかりました。特に雨が降った後の畑では、たやすく見つけることができた記憶があります。私の住んでいる村上周辺は土器がたくさんあるんだと思わせてくれました。

ちょっと気を付けてみたら、足元に昔の生活の発見があるかもしれません。



里の整備作業（11月～2月）

15 陸の豊かさも
守ろう



←かいぼり



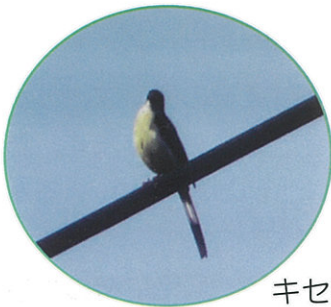
←カラスウリの根



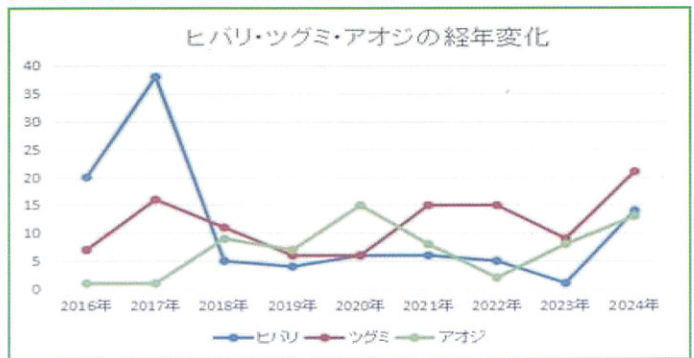
里からのお知らせ

◆ヤマトミクリの里周辺の野鳥調査より

ヤマトミクリの里周辺（桑納、島田）の野鳥調査は、毎年2月と5月に実施しています。今年2月15日（木）に、神講師を含め10名で行いました。今回は農業交流センターから、島田谷津、むつみの森、巖島神社、桑納の田んぼ、新川のルートにしました。ルート変更が良かったのか33種（去年は21種）と、昨年に比べ大幅に増えました。谷津ではキセキレイ、クワイタダキ。田んぼでは、ヒバリ、チョウゲンボウ、ノスリ。新川ではバン、コガモなど。今年初めて見る鳥など、調査を楽しませてくれる結果となりました。ヤマトミクリの里周辺の自然環境の豊かさが、実感できる調査となりました。



キセキレイ（松尾氏提供）



◆ほたるの里づくり実行委員会 第27回総会案内

日時：2024年4月13日（土）9：30～10：30

会場：やちよ農業交流センター 第1・2研修室

内容：令和5年度事業報告・収支決算

令和6年度事業計画・予算案

※総会終了後、ほたるの里へ行き、里に生えている木について、楽しく学びます。

木の観察会

時間：10：40～12：00

場所：ほたるの里

[編集後記] (広報部)

桜の開花が毎年早くなっています。暖冬のせいか、気温の変化が激しく、生き物たちにも、私たちにも対応が難しいですね。里の湿地でクサガメがひなたぼっこしている姿を見かけます。ほっこりしてしまいます！

[ほたるの里 連絡先]

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5 八千代市環境政策室内

Tel：047-421-6767

E-mail：kankyou1@city.yachiyo.chiba.jp

HP：https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/40/3728.html

【編集】広報部会・事務局